

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立南川副小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	様々な課題解決や教育活動推進に向けて、それぞれの担当を中心に組織で進めることができた。これまでの取組を継続しつつ、次の視点をもって取組を進めていく。 ・学力向上については、依然として課題の残る結果だった。引き続き全国や県の水準に並び越えることを目標とし、教職員の指導力向上を図ると共に、家庭学習の在り方やタブレットの有効活用について見直しを進め、学力の向上に努める。 ・児童一人一人の課題の改善と将来的な自立に向けて、自立活動の計画や個別の指導計画の作成等を行う。困り感を持った児童を早期に発見し、手立てを講じるためにも、コーディネーターを中心に組織的に対応していく。保護者への啓発や関係機関との連携も充実させる必要がある。 ・長期にわたる不登校児童への対応を中心に、校内でのケース会議や必要に応じて関係機関と連携したチームでの対応を行う。また、にこにこアンケートや教育相談週間等を通して、未然防止にも努める。全体的に、相手のことを考えて行動する児童を育てる取組を進めていく。
------------------	---

2 学校教育目標	自分を磨く子どもの育成 ～自ら学び 心豊かに たくましく 生きる南っ子～
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>【確かな学力を磨く】 (1) 「主体的・対話的で深い学び」へ (2) 指導力の向上 (3) 時代が求める課題への対応</p> <p>【豊かで多様な感性を磨く】 (1) 豊かな心と多面的考え方の育成 (2) 特別支援教育の充実 (3) 特別活動</p> <p>【健やかたたくましい心身を磨く】 (1) 健やかな体とたくましい心づくり (2) 安全・防災教育 (3) 生徒指導・児童理解</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1) 共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言			
●学力の向上	●南川副小型授業を取り入れた、思考・判断・表現の能力を伸ばすための学習指導法の工夫	●学習の場において、自分の思いや考えを正しく伝えることができる児童80%以上	A	・全校アンケートを行ったところ、84%の児童が「自分の考えをもつ」と回答した。学年の実態に沿った論議と話し合わせ方を実践していることで、考えることの困難さがなく、考えをもつことができたと考えられる。	A	・10月の人権・同和教育授業実践交流会に向けて、全職員で取り組んだ。参観者から肯定的な感想が多くあった。 ・全校アンケートを行ったところ、「自分の考えをもつ」が91.8%、「学習が楽しい」が91.8%の児童の回答があった。中間評価よりも高く、学習への意識が高くなったと思われる。	A	・自分の考えをもつという意識の向上ができてきていると思えます。 ・勉強が分かると学習する楽しさも湧いてきます。一つ一つ達成感を味わうのが楽しく学習に取り組んでほしいです。 ・研究の成果が子どものアンケートに表れています。「自分の考えをもつ」学習が楽しいは、Well beingのベースになる子どもの意識です。伸びが期待されます。	●研究推進委員		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートを実施し、「生命尊重、親切、思いやり、規律の尊重、善悪の判断など」肯定的な回答80%以上 ○人権・同和教育の視点を常に持ち、日常の指導において、仲間作り及び望ましい集団づくりに努めている教職員を85%以上	A	・人権・同和教育の視点をもち、日常の指導において、仲間作り及び望ましい集団づくりに努めている教職員が90%以上だった。 ・3月～参観や授業参観でふれあい道徳を実施し、保護者への啓発を行った。 ・毎週木曜日を道徳教育の日として人権教育や道徳の充実を図った。 ・OUIテストを月に実施し、講師を招いて校内研修を夏季休業に行った。	A	・学校評価アンケートにおける道徳教育の項目については、「よいことをしたり頑張ったりしたとき先生はほめてくれる」92%、「いけないことしたり怒られたりした時、先生はきちんと指導してくれる」94%であった。	A	・「ほめ言葉は子ども達にとって嬉しいし、またがんばろうと思う気持ちになると思います。」 ・学校で一番身近にいる先生との信頼関係がよく、子どもの安心感が窺える。	●心づくり部		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめ問題には、必ず、管理職を交えた組織で対応する。「組織で対応している。」と回答した職員100%	A	・毎月のにこにこアンケートで、児童の気になる言動や様子を把握し、毎月の連携会議でそれらを職員間で共有することにより、管理職を含めた組織として早期対応を行う。 ・認知した事案については、指導や謝罪が済んだ後、複数の職員で一定期間(3か月以上)見守り、解消させる。	A	・毎月のにこにこアンケートの結果を振り返り、どのような対応をしているのか共有をした。 ・毎月の連携会議で、気になる子を共有したり、全体指導が必要なことを確認した。 ・1学期にいじめ事案についての職員への聞き取りを行い、認知すべき事案かを関係職員で検討した。	A	・いじめは早期の対応が重要で、組織での対応指導ができています。 ・大人の目がないところでのいじめをする子、恐いからいいなりになる子どももいるようです。とても難しい問題で親の育った環境、心のもちようが子どもにも影響を与えてしまう。親への指導からは思うもの介入できない。 ・今後も一人一人に温かく対応してほしい。	●生活部		
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「将来の夢や目標を持っている」に「肯定的な回答をした児童生徒80%以上	A	・道徳科や学級活動、総合的な学習の時間において、キャリアパスポートを活用する。将来の夢やそのための手立てを書いたカードを常時掲示し、毎月第4木曜日に自己評価をする機会を設ける。	A	・年度の始めに将来の夢を書き、毎学期の始めに目標を設定し、毎月振り返りを行った。掲示する場所は、各学級の裁量に任せた。	A	・「自分で決めた夢や目標に向かってがんばっている」187%。 ・毎学期の始めに立てた目標に対するふりかえりを毎学期末に行った。	A	・目標をもつことの大切さの徹底が望まれます。 ・将来の目標も大事だけど、まだもてない子どもたくさんいると思います。日々幸せに過ごすための小さな目標も大切だと思います。	●キャリア教育 野田 中村
○不登校の未然防止	○「学校がとても楽しい」「学校が楽しい」と思うことができる児童を85%以上	A	・にこにこアンケートを毎月実施し、児童の実態を把握する。その上で、児童へのアンケートや個別の指導などを通して、児童の実態を把握し、ケース会議や中間評価で話し合いを行った。必要に応じて、関係機関との連携も行った。	A	・「学校がとても楽しい」「学校が楽しい」と回答している児童は、10月時点で96%だった。 ・学校評価保護者アンケートにおいても「学校を楽しんでいる」と肯定的に回答した保護者96.7%だった。	A	・にこにこアンケートにおいて「学校がとても楽しい」「学校が楽しい」と肯定的に回答している児童が97.2%だった。 ・学校評価保護者アンケートにおいても「学校を楽しんでいる」と肯定的に回答した保護者96.7%だった。	A	・友達がいる学校、友達と過ごすことが楽しいと感じられる学校になっていることが素晴らしいと感じます。	●体づくり部 高柳	
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で210分以上の児童を75%以上	B	・スポーツチャレンジに関するイベントを保健体育委員会が企画し、全校児童でスポーツに取り組む機会を設ける。 ・学年ごとに外遊び推進曜日を設定し、運動への興味・関心を高める。	A	・スポーツチャレンジの「みんなで輪くぐり」「ドッジボールラリー」の2種目に全校で取り組んでいる。11月の中旬ごろに、全校で記録会を行う予定。 ・授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で210分以上の児童の割合は、5月で72%、9月は88%であった。	A	・保健体育委員会と運営放送委員会で協力し11/19に全校で記録会を行った。それに向けて、学年で練習することができた。エントリー賞で2位、トップ賞に6年生、奨励賞にも複数のクラスが選ばれていることができた。	A	・家の中でのゲームをする子ども多くなり、あえて運動時間を設定しないといけない世の中です。おかげでスポーツの時間が増えてきたのは結果として表れており、よかったです。 ・スポーツチャレンジへの参加はよかったです。 ・わくわくする感情が育ちがばる力が育つ。チームで取り組む力、協力、思いやりが育つ(仲間意識)結果がよくてまたクラスの自信につながる。	●体づくり部
	○望ましい食習慣の形成	○給食を残さず食べることができる児童を90%以上	A	・給食の様子から各学級で課題を挙げ、その解決策を児童と考える食育の授業を学活や家庭科等で行い、日々の給食指導と連携して解決に向けて取り組む。	A	・給食において、決められた量を1〜2人食べることができない児童がいる学級もあるが、日々の給食指導や食育の授業で改善傾向にある。	A	・給食で自分で決められた量を食べることができるようになってきた。	A	・食の大切さを認識することが食習慣の改善につながるものと確信します。 ・フードロス大作戦のためにも小さい時からの食に対する学びは必要。	●体づくり部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	B	・出勤後にその日の帰宅時刻を設定し、計画的に業務に取り組む。 ・毎週金曜日の定時退勤日や学期末特別校時を設ける。 ・PCでの校内連絡掲示板を活用し、職員間での伝達の効率化を図る。 ・長期休業中など、年次休暇取得促進日を設定する。	B	・連絡事項は、1-schoolの掲示板を活用して伝えることで、担任業務等に充てる時間が増えた。 ・帰宅時刻や定時退勤を意識する職員が増えた。(4月一人当たり9月一人当たり:5:30)10分以上の職員は、9月15%ほどであった。 ・定時退勤日の実施については十分ではなかった。	B	・帰宅時刻や定時退勤を意識する職員が増えた。(4月一人当たり9月一人当たり:13:06)月45時間以上の職員は、1月10%ほどであった。 ・定時退勤日の実施については十分ではなかった。 ・年次取得目標を達成できた職員は35%ほどだった。	B	・教育現場は、子どもに教えるための準備など、やるうと思えばきりがないので難しいですね。だんだん呼びかけて改善すると思います。 ・リフレッシュする時間、仕事以外の時間がたくさん作れるようになることを願います。	●教頭
	○教職員自らの働き方の改革と心身の健康保持への意識の向上	○学校評価及びストレスチェックなどのアンケートで、「積極的な協力体制ができていて」「働きやすい職場の雰囲気がある」について肯定的な回答を93%以上	B	・3部会の中で、部長を中心として協力体制を確立させる。 ・生活指導、教育相談に係る諸問題の解決に、チームで取り組み、負担感の軽減を図る。 ・毎週金曜日に情報交換の時間を設定する。	B	・部会長のリーダーシップのもと、助け合いながらそれぞれの部会の仕事をこなしていた。 ・セルフケア、ライクケアに関する情報を観覧等で周知した。	A	・所属する部会等で率直な意見交換があり、アイデアが生まれ、案に改善と充実を目指した実践ができています。職員は約90%「仕事にやりがいを感じ、努力や成果を認め合う働きやすい職場の雰囲気がある。」職員は約85%であった。	A	・チーム体制をされることは、お互いを知り、気持ちも通じ、わかり合えるよい方法だと思います。 ・「研究内容・方法を明確にした校内研究が、全職員の協力体制のもと積極的に実施されている。」と答えた職員は、90%であった。	●教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の更なる推進	○学校評価(保護者アンケート)で、特別支援教育の取組に対する保護者の理解を90%以上とする。 ○外部講師を招請し、支援を要する児童への理解、指導及び支援の在り方並びに連携づくりに関して研修会を1回以上行う。	A	・教員研修会やPTA総会、月に1回実施する特別支援教育に関する連携等で保護者への理解を図る。 ・校内支援会議で、全職員の共通理解を促し、指導・支援を行う。 ・個別相談を活用し、困り感を持った児童の早期発見や効果的な支援の在り方を研修会等で行う。	A	・外部講師を招請し、支援を要する児童への理解、指導及び支援の在り方並びに連携づくりに関して研修会を行った。 ・校内支援会議で、全職員の共通理解を促し、個別にケース会議も行った。 ・個別相談を活用し、困り感を持った児童の早期発見や効果的な支援の在り方を研修会等で行う。	A	・学校評価(保護者アンケート)で、特別支援教育の取組に対する保護者の肯定的な回答100%。 ・教員研修会やPTA総会、月に1回実施する特別支援教育に関する連携等で保護者や地域への理解を図る。 ・校内支援会議で、全職員の共通理解を促し、指導・支援を行う。 ・個別相談を活用し、困り感を持った児童の早期発見や効果的な支援の在り方を研修会等で行う。	A	・学校と家庭の連携が必須で、情報の共有もされていると感じます。 ・広範囲、細かい対応で、100%までになり、就学前教育も、幼保小連携もその一環になっていますね。	●心づくり部

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
OICT活用推進	OICT活用推進	○授業や家庭学習で学習用タブレットを活用することができたと感じる児童が80%以上	A	・一人一台端末の活用について、長期休業中に一度スキルアップを図る研修を実施する。 ・タブレットを持ち帰り、家庭学習の充実を図る。	A	・夏季休業中に、外部講師による授業に役立つアプリやサイトの紹介を中心とした研修を行った。 ・4年生以上のタブレットの毎日持ち帰りを開始した。 ・11月にOICTに関するアンケートを実施予定。	A	・児童の学校生活アンケートで「タブレットを活用して、進んで学習に取り組んでいる」と回答した児童が92%だった。 ・ICTに関するアンケートを実施し、その結果を分析し、2学期の学級懇話会の際に保護者に周知した。	●生活部
○教職員の資質向上	○教職員の資質向上	○服務規律違反を0(ゼロ)にする。 ○職員アンケートにおいて、「指導方法の改善に努め、授業力が向上した」と回答した割合を90%以上	A	・服務規律、教職員としてのマナー等について講師を招請し、研修会を行う。 ・月に1回「ゼロの目」の取組。 ・校内研究を核とした授業公開、相互授業参観を実施することで、授業力向上を図る。	A	・月1回の「ゼロの日」の取組を始め、講師を招請した服務規律保持の研修などを通して、意識を高めるように努めている。 ・授業公開に向けて、学年グループごとに授業準備を行い、よりよい授業にしようという話し合いを重ねることができた。	A	・「教習運転の模範、体罰の禁止、セクハラ防止など服務規律の保持に努めている。」職員100%。 ・「研究内容・方法を明確にした校内研究が、全職員の協力体制のもと積極的に実施されている。」と答えた職員は、90%であった。	●教頭

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	様々な課題解決や教育活動推進に向けて、それぞれの担当を中心に組織で進めることができた。次年度に向けて、以下の点について各指導部会で方策を検討する。そして、全職員で重点目標や成果指標をより意識し、改善に向けた教育活動に取り組んでいく。 ・学力向上については、依然として課題の残る結果だった。引き続き全国や県の水準に並び越えることを目標とし、教職員の指導力向上を図る。特に、作文力の向上に努める。 ・児童一人一人の課題の改善と将来的な自立に向けて、巡回相談の利用やSCや関係機関と連携し、助言等ももらいながら指導を行い、専門性の向上に努めた。交流学級との関わりや協働学習については、今後も引き度き積極的な実施に向け改善を図っていく。 ・長期にわたる不登校児童への対応を中心に、校内でのケース会議や必要に応じて関係機関と連携したチームでの対応を行う。また、にこにこアンケートや教育相談週間等を通して、未然防止にも努める。
----------------	--